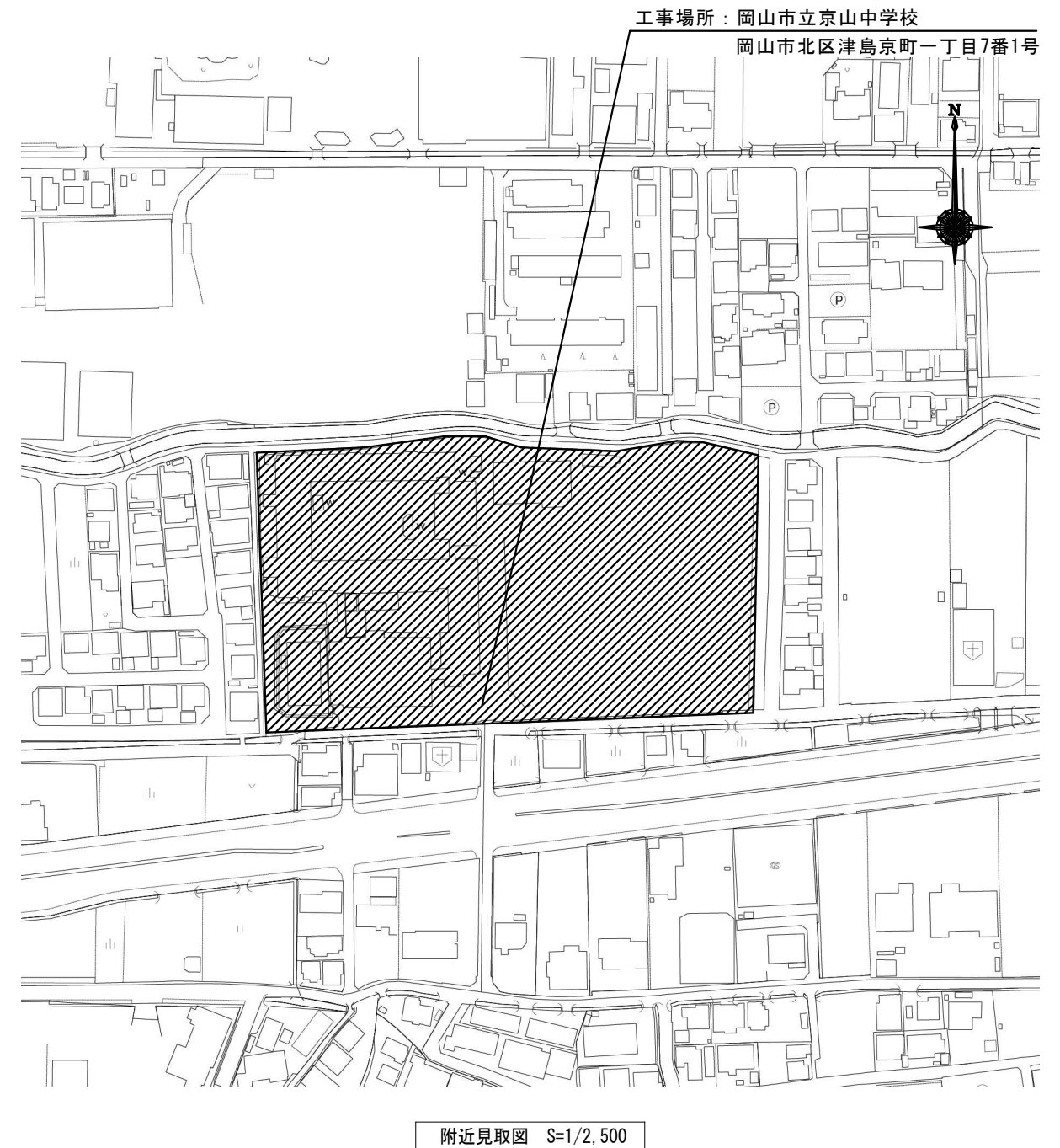


令和6年度
岡山市立京山中学校正門改修工事

【工事概要】 正門改修工事一式

【 図面リスト 】

図 面 番 号	図 面 名	縮 尺
A－01	表紙・図面リスト・附近見取図	1/2,500
A－02	建築改修工事特記仕様書 1	—
A－03	建築改修工事特記仕様書 2	—
A－04	建築改修工事特記仕様書 3	—
A－05	建築改修工事特記仕様書 4	—
A－06	建築改修工事特記仕様書 5	—
A－07	建築改修工事特記仕様書 6	—
A－08	配置図	1/800
A－09	仮設計画図（参考）	1/400
A－10	改修前後平面図	1/100
A－11	改修前後立面図	1/100、1/50
A－12	外構詳細図①	1/60、1/20、1/6
A－13	外構詳細図②	1/20



工 事 名		岡山市立京山中学校正門改修工事			No. A-01	
図 名		表紙・図面リスト・附近見取図		縮尺		
岡山市都市整備局住宅・建築部					令和6年3月	
公共建築課	課 長	主 幹	課長補佐	係 長	課 員	設計担当

岡山市建築改修工事特記仕様書			
Ⅰ. 工 事 概 要			
工 事 名 称		岡山市立京山中学校正門改修工事	
工 事 場 所		岡山市北区津島京町一丁目7番1号	
敷 地 面 積		㎡	
棟 名 称 / 構 造		構 造	構 造
施 工 条 件		・無人改修 ・有人改修	・無人改修 ・有人改修
床 面 積 (㎡)	階		
	階		
	階		
	階		
	階		
	小 計		
合 計			
建築面積 (㎡)		㎡	
消防法施行令別表第一区分			
建ぺい率 (指定率)		60 % (%)	容積率 (指定率)
用途地域		第1種住居地域	防火地域 ・ 防火地域 ・ 準防火地域 ○指定なし
工 事 範 囲	建築主体工事	別 途 工 事	
Ⅱ. 建築改修工事仕様			
1. 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）による。図面、本特記仕様書及び改修標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編（令和4年版）」（以下、「標準仕様書」という。）又は国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）」による。			
2. 「岡山市内の公共建築物における県産材等の利用促進に関する方針」（H23.11.1）により、県産材等の積極的な利用に努めること。県産材とは、岡山県の「木材業者等登録」を受けている製材業者が製材・加工した製品とする。			
2. 特記仕様			
（1）項目は番号に○印のついたものを適用する			
（2）特記事項は○印のついたものを適用する ○印のつかない場合は、※印のついたものを適用する			
○印と※印のついた場合は共に適用する			
（3）項目に記載〔 〕の内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。 （ ）の内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。			
（4）G印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」に定める特定調達物品等を示す。			
（5）関係法令の改正等により（条例を含む）、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応等について、監督職員と協議すること。			
（6）材料及び製造所等の記載は順不同である。			
（7）「監督職員」は「監督員」と読み替える。			
章	項 目		特 記 事 項
1 一般共通事項	① 適用基準等	※建築工事標準詳細図（令和4年版） （以下「標準詳細図」という） ※営繕工事写真撮影要領（令和3年版）	
	2 電気保安技術者	配置する	
	③ 施工条件	・施工時間帯 ※指定なし ・指定あり（ ） ・施工ができない日等 ※指定なし ・指定あり（別添「学校行事に伴う施工ができない日等（予定）」に基づき監督職員と協議するものとする） ・部位別の施工順序 ※指定なし ・指定あり（・図示 ） ・工事車両の駐車場所（※図示 ） ・資機材置場（※図示 ） ・建設発生土仮置場（※図示 ） ※週休2日促進工事について ・本工事は、週休2日促進工事の対象である。週休2日促進工事特記仕様書を参照すること。 ・本工事は、週休2日促進工事の対象外である。	
	④ 工事安全計画書	建築工事安全施工技術指針及び建設工事公衆災害防止対策要綱（建築工事編）に基づき、工事の施工に先立ち工事現場の安全対策に関する具体的な工事安全計画書を監督職員に提出する	
	⑤ 発生材の処理等	・引渡しを要するもの（ ） ・特別管理産業廃棄物（ ） 処理方法（ ） ・現場において再利用を図るもの（ ） ・再生資源化を図るもの ・コンクリート塊 ・アスファルトコンクリート塊 ・建設発生木材 ・せつこうボードの処理 ・石綿含有せつこうボード 9章による ・ひ素・カドミウム含有せつこうボード ・製造業者に回収委託 ・埋立処分（管理型最終処分場） 処分施設の名称（ ） 所在地（ ） ・石綿含有、ひ素・カドミウム含有以外のせつこうボード ・再生資源化（再資源化施設） ・最終処分（管理型最終処分場） 処分施設の名称（ ） 所在地（ ） ・PCB含有シーリング材の処理 ・第一次判定 現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の要否を判定する 採取箇所数 計 箇所 採取箇所 ※図示 ・第二次判定 専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う 分析箇所 計 箇所 ・除去処理工事 除去範囲 ※図示	
	⑥ 環境への配慮	本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図面に規定する品質及び性能を有すると共に、次の1）から4）を満たすものとする。 1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図面に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 2) 接着剤及び塗料にトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 3) 接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含む） 4) 1)の材料を使用した家具、書架、装飾台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 また、設計図面に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。 ホルムアルデヒド放散量 規制対象外に該当する建築材料 ①建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ホルムアルデヒド放散量 第三種に該当する建築材料 ①建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ②建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料	

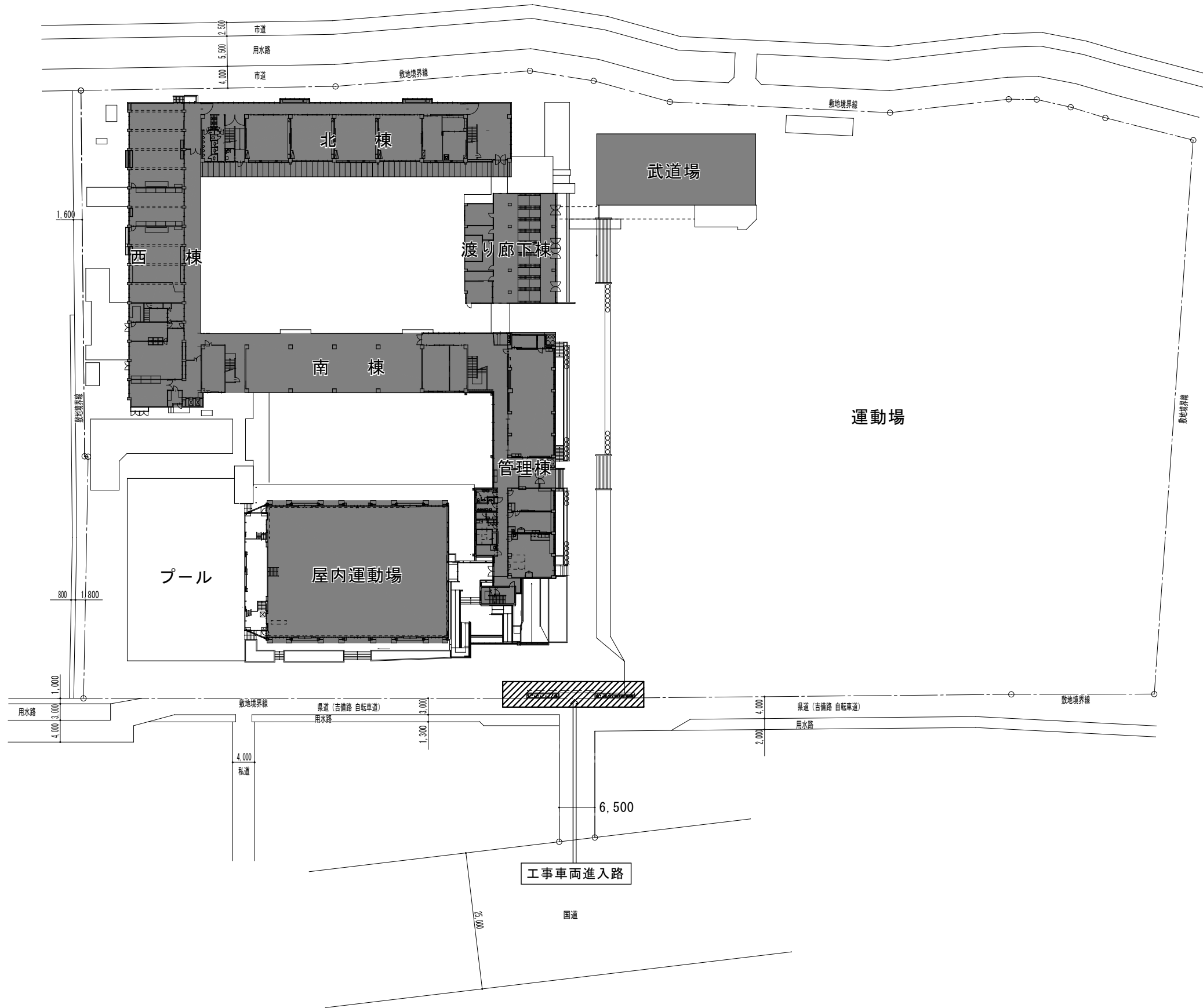
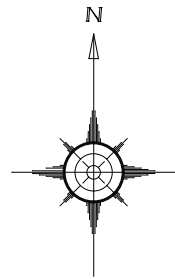
6	合成高分子系 ルーフィングシート防水 〔3. 1. 4〕 〔3. 5. 2～4〕	防水層の種類				1	アルミニウム製笠木 〔3. 9. 2～3〕	種類 ・ オープン形式（ ・ 押出250形 ・ 押出300形 ・ 押出350形） 〔表3. 9. 1〕 ・ 板材折曲げ形（ ・ オープン形式 ・ シール形式） 本幅（ ）mm 板厚（※2.0mm ・ mm） 表面処理 種別（ ）種 皮膜等の種類（※標準仕様書表14. 2. 1による ・ ） 着色（※標準色 ・ 特注色（ ）） 既存笠木等の撤去 ・ 行う（範囲 ・ 図示 ・ ） ・ 行わない 地下補修の工法 ※図示 ・ 板材折曲げ形の笠木の取付方法 ※図示 ・ 笠木の固定金具の工法等 1章 20 適用区分による風圧力に対応した工法 ※適用する（1章 20 適用区分による風圧力の（ ・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法） ・ 適用しない	2	欠損部改修工法 〔4. 1. 4〕〔4. 3. 9. 1〕	※充填工法（欠損部の面積が0.25m ² /箇所程度以下の場合） 充填材の種類 ※ポリマーセメントモルタル ・ エポキシ樹脂モルタル ・ モルタル塗替え工法 モルタルの材料 ※現場調合材料 ・ 既調合材料 既製目地材 ・ 使用する（形状 ） 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示 ・ ※モルタルを撤去しないで改修 ・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法（ ・ 注入口付 ・ ） ・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法（ ・ 注入口付 ・ ） ・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法（ ・ 注入口付 ・ ） アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの 注入口付アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼（SUS304）呼び径外径6mm ・ モルタルを撤去して改修 モルタルの材料 ※現場調合材料 ・ 既調合材料 ・ 充填工法 ・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル ・ モルタル塗替え工法 既製目地材 ・ 使用する（形状 ） 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示 ・	3	浮き部改修工法 〔4. 1. 4〕 〔4. 3. 11～16〕	※モルタルを撤去しないで改修 ・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法（ ・ 注入口付 ・ ） ・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法（ ・ 注入口付 ・ ） ・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法（ ・ 注入口付 ・ ） アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの 注入口付アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼（SUS304）呼び径外径6mm ・ モルタルを撤去して改修 モルタルの材料 ※現場調合材料 ・ 既調合材料 ・ 充填工法 ・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル ・ モルタル塗替え工法 既製目地材 ・ 使用する（形状 ） 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示 ・	4	外壁複合改修構工法	平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする
		防水層の種類															
		防水面調査（施工数量調査）															
		ひび割れ部補修 欠損部改修 浮き部補修 ざい弱部補修 既存目地欠損部補修 既存目地欠損部補修（図表に利用する場合）															
		アスファルト舗装工事用シール材（幅20mm未満） ひオットの上ポリウレタン系シール材（幅20mm以上） ポリマーセメントモルタル補修 ポリマーセメントモルタル補修 接着剤の上、ポリマーセメントモルタル補修 アスファルト舗装工事用シール材 ポリマーセメントモルタル補修 既存目地欠損部補修の上ポリウレタン系シール材															
		（品質・性能）															
		項目 品質・性能															
		だれ 下がり量（mm） 5以内															
		表面の状況 ひびわれの発生がないこと。															
		曲げ強さ（N/mm ² ） 6.0以上															
圧縮強さ（N/mm ² ） 20.0以上																	
接着強さ（N/mm ² ） 標準条件 1.0以上																	
特殊条件 湿潤時 0.8以上																	
低湿時 0.5以上																	
透水性 表面のぬれ、水滴の付着が無いこと。																	
その他 1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常湿において製造後6か月保存しても、変質しないこと。																	
（品質・性能）																	
広がり速度（cm/s） 長さ変化率（%） 引張接着性（材齢28日）（N/mm ² ） 曲げ性能（72時間）（劣化曲げ強さ）（N/mm ² ） 吸水性（%） 耐久性（%）																	
3以上 3以下 0.5以上 5.0以上 15以下 5.0以上																	
保水係数 0.35～0.55																	
粘弾係数 0.50～1.00																	
改修標準仕様書 表4. 3. 2による																	
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、湿和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。																	
（品質・性能）																	
保水率：70%以上																	
単位容積質量：1.8kg/g以上																	
接着強さ：標準時 0.6N/mm ² 以上、湿冷繰り返し後 0.4N/mm ² 以上																	
長さ変化率：0.2%以下																	
曲げ強さ：4.0N/mm ² 以上																	
※樹脂注入工法																	
工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（mL/㎡）																	
※A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 200～300 ※40 -																	
0.3以上0.5未満 ※40 -																	
0.5以上1.0未満 ※70 -																	
※B 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※40 -																	
※C 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※70																	
※D 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※130																	
注入状況の確認方法 ※注入量により確認 ・ コアの採取を行う ・ コアの採取回数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・ コアの採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ シーリング材																	
充填材料 ※1成分又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・ 行わない																	
※可とう性エポキシ樹脂																	
※バテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂																	
※充填工法																	
・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル																	
ひび割れ部改修工法 〔4. 1. 4〕〔4. 2. 4～7〕																	
※樹脂注入工法																	
工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（mL/㎡）																	
※A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 200～300 ※40 -																	
0.3以上0.5未満 ※40 -																	
0.5以上1.0未満 ※70 -																	
※B 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※40 -																	
※C 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※70																	
※D 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※130																	
注入状況の確認方法 ※注入量により確認 ・ コアの採取を行う ・ コアの採取回数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・ コアの採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ シーリング材																	
充填材料 ※1成分又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・ 行わない																	
※可とう性エポキシ樹脂																	
※バテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂																	
※充填工法																	
・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル																	
ひび割れ部改修工法 〔4. 1. 4〕〔4. 3. 6～8〕																	
※モルタルを撤去しないで改修																	
※樹脂注入工法																	
工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（mL/㎡）																	
※A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 200～300 ※40 -																	
0.3以上0.5未満 ※40 -																	
0.5以上1.0未満 ※70 -																	
※B 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※40 -																	
※C 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※70																	
※D 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※130																	
注入状況の確認方法 ※注入量により確認 ・ コアの採取を行う ・ コアの採取回数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・ コアの採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ シーリング材																	
充填材料 ※1成分又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・ 行わない																	
※可とう性エポキシ樹脂																	
※バテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂																	
※充填工法																	
・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル																	
ひび割れ部改修工法 〔4. 1. 4〕〔4. 3. 6～8〕																	
※モルタルを撤去しないで改修																	
※樹脂注入工法																	
工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（mL/㎡）																	
※A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 200～300 ※40 -																	
0.3以上0.5未満 ※40 -																	
0.5以上1.0未満 ※70 -																	
※B 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※40 -																	
※C 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※70																	
※D 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※130																	
注入状況の確認方法 ※注入量により確認 ・ コアの採取を行う ・ コアの採取回数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・ コアの採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ シーリング材																	
充填材料 ※1成分又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・ 行わない																	
※可とう性エポキシ樹脂																	
※バテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂																	
※充填工法																	
・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル																	
ひび割れ部改修工法 〔4. 1. 4〕〔4. 3. 6～8〕																	
※モルタルを撤去しないで改修																	
※樹脂注入工法																	
工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（mL/㎡）																	
※A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 200～300 ※40 -																	
0.3以上0.5未満 ※40 -																	
0.5以上1.0未満 ※70 -																	
※B 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※40 -																	
※C 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※70																	
※D 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※130																	
注入状況の確認方法 ※注入量により確認 ・ コアの採取を行う ・ コアの採取回数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・ コアの採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ シーリング材																	
充填材料 ※1成分又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・ 行わない																	
※可とう性エポキシ樹脂																	
※バテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂																	
※充填工法																	
・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル																	
ひび割れ部改修工法 〔4. 1. 4〕〔4. 3. 6～8〕																	
※モルタルを撤去しないで改修																	
※樹脂注入工法																	
工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（mL/㎡）																	
※A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 200～300 ※40 -																	
0.3以上0.5未満 ※40 -																	
0.5以上1.0未満 ※70 -																	
※B 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※40 -																	
※C 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※70																	
※D 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※130																	
注入状況の確認方法 ※注入量により確認 ・ コアの採取を行う ・ コアの採取回数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・ コアの採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ シーリング材																	
充填材料 ※1成分又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・ 行わない																	
※可とう性エポキシ樹脂																	
※バテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂																	
※充填工法																	
・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル																	
ひび割れ部改修工法 〔4. 1. 4〕〔4. 3. 6～8〕																	
※モルタルを撤去しないで改修																	
※樹脂注入工法																	
工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（mL/㎡）																	
※A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 200～300 ※40 -																	
0.3以上0.5未満 ※40 -																	
0.5以上1.0未満 ※70 -																	
※B 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※40 -																	
※C 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※70																	
※D 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※130																	
注入状況の確認方法 ※注入量により確認 ・ コアの採取を行う ・ コアの採取回数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・ コアの採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ シーリング材																	
充填材料 ※1成分又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・ 行わない																	
※可とう性エポキシ樹脂																	
※バテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂																	
※充填工法																	
・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル																	
ひび割れ部改修工法 〔4. 1. 4〕〔4. 3. 6～8〕																	
※モルタルを撤去しないで改修																	
※樹脂注入工法																	
工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（mL/㎡）																	
※A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 200～300 ※40 -																	
0.3以上0.5未満 ※40 -																	
0.5以上1.0未満 ※70 -																	
※B 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※40 -																	
※C 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※70																	
※D 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※130																	
注入状況の確認方法 ※注入量により確認 ・ コアの採取を行う ・ コアの採取回数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・ コアの採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ シーリング材																	
充填材料 ※1成分又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・ 行わない																	
※可とう性エポキシ樹脂																	
※バテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂																	
※充填工法																	
・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル																	
ひび割れ部改修工法 〔4. 1. 4〕〔4. 3. 6～8〕																	
※モルタルを撤去しないで改修																	
※樹脂注入工法																	
工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（mL/㎡）																	
※A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 200～300 ※40 -																	
0.3以上0.5未満 ※40 -																	
0.5以上1.0未満 ※70 -																	
※B 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※40 -																	
※C 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※70																	
※D 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※130																	
注入状況の確認方法 ※注入量により確認 ・ コアの採取を行う ・ コアの採取回数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・ コアの採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ シーリング材																	
充填材料 ※1成分又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・ 行わない																	
※可とう性エポキシ樹脂																	
※バテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂																	
※充填工法																	
・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル																	
ひび割れ部改修工法 〔4. 1. 4〕〔4. 3. 6～8〕																	
※モルタルを撤去しないで改修																	
※樹脂注入工法																	
工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（mL/㎡）																	
※A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 200～300 ※40 -																	
0.3以上0.5未満																	

[illegible]

[illegible]

③	セメントの種類 [8. 2. 5]	表 8. 2. 3	
		セメントの種類	使 用 箇 所
		※普通ボルトランドセメント ・高炉セメントB種 (G) ・フライアッシュセメントB種 (G)	
		普通ボルトランドセメントの品質は、 J I S R 5 2 1 0 に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く	
		水和熱	7 日目 2 8 日目
		アルカリシリカ反応性による区分 ※ A ・ B (※コンクリート中のアルカリ総量 Rt=3.0kg/m ³ 以下)	
		④ 骨材の種類 [8. 2. 5]	
		⑤ 混和材料 [8. 2. 5]	
		6 構造体用モルタル [8. 2. 6]	
		7 無筋コンクリート [6. 14. 1~3] [8. 11. 1~3]	
8	ひび割れ誘発目地 打継目地 (6. 6. 4) (6. 8. 1)	目地寸法 ※標準仕様書 9. 7. 3 による ・ 間隔 ※図示による ・高炉セメントB種 (G) 位置 ※図示による ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、打増し厚さ部で処理する	
		⑨ コンクリートの仕上り [8. 1. 4] [8. 2. 7]	
合板せき板を用いるコンクリートの打直し仕上げ			

2	断熱・防露改修工事 [9.3.2~4]	・石綿含有成形板等（石綿含有けい酸カルシウム板第1種）の除去 除去対象範囲 ※図示 除去工法 ※手作業で取外し ・切断・破砕等 切断・破砕等する場合 作業場所を隔離し、湿潤な状態を保ちながら作業すること。（作業場所の隔離は、負圧に保つ必要はない。） 除去した石綿含有けい酸カルシウム板第1種の処分 ・埋立処分（安定型最終処分場） ・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設） 処分施設の名称（ ） 所在地（ ） ・石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板（下地調整材）の除去 下記以外は、改修標準仕様書9.1.1及び9.1.2による 除去工法 ・ ※石綿障害予防規則（平成十七年二月二十四日厚生労働省第二十一号）第6条による措置と同等以上の効果を有する措置とされる工法 ・集じん装置併用手工具ケレン工法 ・集じん装置付き高圧水洗工法（15MPa以下、30～50MPa程度） ・集じん装置付き超高压水洗工法（100MPa以上） ・超音波ケレン工法（HSDPAフィルター付き掃除機併用） ・剥離剤併用手工具ケレン工法 ・剥離剤併用高圧水洗工法（30～50MPa程度） ・剥離剤併用超高压水洗工法（100MPa以上） ・剥離剤併用超音波ケレン工法 ・集じん装置付ディスクグラインダーケレン工法 ・ 作業場所の隔離 ※行わない ・行う 試験施工 ※行わない ・行う 除去した石綿含有仕上塗材の処分 ・埋立処分（安定型最終処分場） ・埋立処分（管型型最終処分場） ・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設） 除去した石綿含有仕上塗材の保管、運搬及び処分 ※改修標準仕様書9.1.3(3)による ・ 確認及び後片付け ※改修標準仕様書9.1.3(4)の(7)、(9)、(h)及び(9)による 石綿含有建材除去後の仕上げ工事 ※図示 ・	5 表示 (20.2.11) ・案内板 ・施設案内板（※標準詳細図による ・図示による） ・各階案内板（※標準詳細図による ・図示による） ・視覚障害者用案内板（※図示による） ・案内板による ・標準詳細図による ※JIS Z8210による ・図示による 形状・その他 ※図示による ※標準詳細図による ・切抜文字（・ステンレス製・黄銅製） ・簡文字（・ステンレス製・黄銅製） 字数（ ） 文字の大きさ（ x ） ・対人衝突防止表示 ・図示による ・非常用出入口 ・図示による 案内図記号はJIS Z8210による 6 ブラインド(6) (20.2.14) 形式 ・模型ブラインド ・縦型ブラインド スラットの材質 アルミニウム合金製 ・アルミスラット ・クロススラット 種類 ※ギア式 ・コード式 ※1本操作コード式 ・操作棒式 ※2本操作コード式 スラットの幅（mm） ※25・35 ・80・100 ボックス・レールの材質 ※鋼製 ・アルミニウム合金製 幅・高さ・取付箇所 ※図示 ・ ※図示 ・ 7 ロールスクリーン (20.2.15) 操作方式 ・スプリング式 ・コード式（チェーン式） ・電動式 材質 ・図示による ・ 遮光性能 ・図示による ・ 寸法及び取付箇所 ・図示による ・ 8 カーテン及びカーテンレール (20.2.16) カーテン(8) 取付箇所 生地の種類、品質、特殊加工等 ひだの種類 形式 開閉操作 ・シングル ・片引き ※手引き ・ひも引き ・ダブル ・引分 ・電動 ・シングル ・片引き ※手引き ・ひも引き ・ダブル ・引分 ・電動 カーテンレール及び付属金物 施工箇所 強さによる区分 材料による区分 仕上げ 形状 開閉用付属金物 ・10～60 ※7A～7M及び7M以上の合金の押出し成型材 ※7A～7M ※角形 ・ ・ ※10～90 ・ ・暗幕用は300mm以上の召し合せの重掛けとする 9 点検口 天井 材質 アルミニウム製 寸法（mm） ※450×450 ・600×600 形式 一般型 外枠 ・縫縁タイプ ・目地タイプ 内枠 ・縫縁タイプ ・目地タイプ 枠の許容差 ±0.5mm以内 外枠と内枠のクリアランス 片側2.0mm以内 材料の品質及び性能 外枠、内枠の材質 アルミニウム合金押出型材 JIS H4100 A6063S-T5 表面処理 表14.2.1のAC-1種、AC-2種（外部はBB-1種、BB-2種） 外枠及び内枠のコーナースタック、吊り金物、取付ボルト 鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの 床 材質 アルミニウム製 寸法（mm） ・450×450 ※600×600 形式 ※屋内用一般型 ・密閉型 バックンを装着しないものと及びがたつき防止用バックンを装着したものと 枠の許容差 ±0.5mm以内 外枠と内枠のクリアランス 片側2.0mm以内 材料の品質及び性能 受枠材、蓋枠材、コーナースタック、底板材、底板補強材 アルミニウム合金押出型材 JIS H4100 A6063S-T5 表面処理 表14.2.1のAB-1種、AB-2種、BB-1種、BB-2種 開閉方式 施設・開設は、鍵又は開閉用ハンドル式 その他 製造所の仕様による 10 天井見切り縁等 壁及び下がり壁と天井の取合いの見切縁（天井見切縁、下がり壁見切縁）の材質 ※アルミニウム既製品 ・ビニル既製品 11 視覚障害者用床タイル（視覚障害者誘導用ブロック） (11.2.2) (19.2.2) 12 埋戻し及び盛土 (3.2.3) 種類 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 D種の場合は必要に応じて「セメント及びセメント系固着材を使用した改良土の六面クロム溶出試験実施要領（案）」により、監督職員と協議の上、六面クロム溶出試験を行うものとする。 13 建設発生土の処理 (3.2.5) ※構外指示の場所に処分 ・構内指示の場所に敷き均し ・構内指示の場所に堆積 14 砂利地業 (4.6.2) (4.6.3) 材料 ※再生クラッシュラン(8) ・切込砂利及び切込砕石 厚さ及び使用範囲 厚さ 使用範囲 ○100～150 ○図示による ・ 15 捨コンクリート地業 (4.6.4) コンクリートの種類 ※普通コンクリート ・ 設計基準強度 ※18N/mm ² ・ N/mm ² スランプ 15cm ・18cm 厚さ及び使用範囲 厚さ 使用範囲 ※50 ・ ○図示による ・ 16 床下防湿層 (4.6.5) 施工範囲 ※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く） 防湿工法 ※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上 ・ 防湿層の位置 ※図示による 17 排水管 (21.2.1) ・通心力鉄筋コンクリート 種類 ※外径管1種B形 ・ 継手 ※ゴム継合 ・モルタル継合 ・硬質ポリ塩化ビニル管 ・VP・VU・RS-VU(8) 建物外での硬質ポリ塩化ビニル管であって、使用済み塩化ビニル管を原材料とする塩化ビニルが製品全体重量比で30％以上使用されていること	18 側溝、排水枡等 (21.2.2) ・鉄製製の 型式 ※水封型 ・簡易密閉型 ・密閉型 ・中ふた付密閉型 適用荷重（安全荷重〔kN〕） 屋内用 ・T-2用（5） ・ 屋外用 ・T-2用（5） ※T-6用（15） ・T-20用（50） ・ 鍵 ・有 ・無 ・グレーチング 種類 形式 用途 適用荷重 メインバーピッチ 上面形状 ・鋼製 ・受枠付 ・溝ふた（横断用） ・歩行用 ・普通目 ・細目 ※凹凸形 ・ボルト ・溝ふた（側溝用） ・T-2用 ・普通目 ・細目 ・ 固定 ・樹ふた用 ・T-6用 ・普通目 ・細目 ・U字溝用 ・T-14用 ・普通目 ・細目 ・T-20用 ・普通目 ・細目 ・ステンレス製 ・受枠付 ・溝ふた（横断用） ・歩行用 ・普通目 ・細目 ・凹凸形 ・ボルト ・溝ふた（側溝用） ・T-2用 ・普通目 ・細目 ・平形 固定 ・樹ふた用 ・T-6用 ・普通目 ・細目 ・U字溝用 ・T-14用 ・普通目 ・細目 ・T-20用 ・普通目 ・細目 路床 (22.2.2~5) 路床の構成 ※標準詳細図による ・ 盛土に用いる材料（表3.2.1）による ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 支持力比（CBR）試験 ※行わない ・行う（※乱した土 ・乱さない土） 締固め度の試験 ※行わない ・行う 現場CBR試験 ※行わない ・行う 路盤 (22.3.2~5) 路盤の構成 ※標準詳細図による ・図示による 路盤材料 ※再生材クラッシュラン(8) ・クラッシュラン鉄鋼スラグ(8) 締固め度の試験 ※行わない ・行う アスファルト舗装 (22.4.2~6) 舗装の構成 ※標準詳細図による ・図示による アスファルト ※再生アスファルト(8) ・ストレータアスファルト 骨材 ※道路用砕石 ・アスファルトコンクリート再生骨材(8) 加熱アスファルト混合物等の種類 ※表層 ※密粒度アスファルト混合物（13） ・ 細粒度アスファルト混合物（13） ・ ・基層 ・粗粒度アスファルト混合物（20） シールコート ※行わない ・行う アスファルト混合物の抽出試験 ※行わない ・行う 22 植栽地の確認 (23.1.3) 土壌の水素イオン濃度（pH）試験 ・行う ※行わない 電気伝導度（EC）の試験 ・行う ※行わない 23 植栽基盤の整備 (23.2.2~4) 排水 ・設置する（・暗きよ ・閉きよ ・排水層 ・縦穴排水） ・設置しない 電気伝導度（EC）の試験 ・行う ※行わない 整備工法 表23.2.2 樹木 ・行う（※A種 ・B種 ・C種 ・D種） ※行わない 芝及び地被類 ※行う（※B種 ・ ） ・行わない 植込み用土 ※現場発生土の良質土 ・客土 24 支柱材 (23.3.2) ※丸太（間伐材） ・真竹 25 新植樹木の枯損償 (23.3.4) 枯損償の期間 ※引渡の日から1年 ・ 枯損償の期間内に樹木が枯死、枝損傷、形姿不良等となった場合は、同等以上のもの再植樹するとともに、取り除いた樹木の処分を行うものとする 26 移植樹木の枯損処置 (23.3.6) 枯損処置の期間 ※引渡の日から1年 ・ 枯損処置の期間内に樹木が枯死した場合は、伐採及び伐根を行い、良質土で埋め戻し整地するものとする ○その他			
		10	ユニット及びその他の工事	1 フリーアクセスフロア (20.2.2) 施工箇所 ・ 構造 置敷式 支柱調整式 耐震性能 ・1.0G ・0.6G ・1.0G ・0.6G 所定荷重 ※3000N ・5000N ※3000N ・5000N パネル寸法（mm） ・ 高さ（mm） ・ ・ 床表面仕上げ材の材質 ※タイルカーペット(8) ※タイルカーペット(9) ・帯電防止床タイル(9) ・帯電防止床タイル(9) ボーダー部及びスロープ ※製造所の仕様 ・図示による ※製造所の仕様 ・図示による 寸法精度 ※標準仕様書20.2.2(2)④による ・ 表面仕上材の品質・性能は、改修標準仕様書6章 内装改修工事による 配線用取り出しパネル フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※製造所の仕様による ・20～30％ 配線取り出し開口 ※製造所の仕様による ・パネル1枚につき40mm×80mm程度の開口1ヶ所以上 空調用吹き出し（吸い込み）パネル 耐荷重性能 変形5.0mm以下、残留変形3.0mm以下 耐衝撃性能 残留変形3.0mm以下及び損傷がないこと ローリングロード性能 所定荷重1,000N（5,000Nの積載荷重は1,000N以上で任意）による繰り返し試験後、残留変形3.0mm以下 表面材 ※メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板 ドアエッジ材質形状 ※アルミRエッジ ・ 幅木材質形状 ※ステンレス幅木 ・ 材質 表面仕上げ 直径（mm） 取付箇所 ・集成材 ・CL ・ 60 45 40 ・ ・ステンレスパイプ ・HL ・ 60 45 40 ・ ・銅製パイプ ・EP-G ・SOP 60 45 40 ・ ・ビニル製 材質 ステンレス製（SUS304）（・埋込工法 ※接着工法） 端部フラットエンド ※有（※タイヤと同材 ・ステンレス鋼） ・無 型式 ※ビニルタイヤ又は合成ゴムタイヤ入り ・ 幅（mm） ※約35 ・	2 トイレブース (20.2.5) 表面材 ※メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板 ドアエッジ材質形状 ※アルミRエッジ ・ 幅木材質形状 ※ステンレス幅木 ・ 材質 表面仕上げ 直径（mm） 取付箇所 ・集成材 ・CL ・ 60 45 40 ・ ・ステンレスパイプ ・HL ・ 60 45 40 ・ ・銅製パイプ ・EP-G ・SOP 60 45 40 ・ ・ビニル製 材質 ステンレス製（SUS304）（・埋込工法 ※接着工法） 端部フラットエンド ※有（※タイヤと同材 ・ステンレス鋼） ・無 型式 ※ビニルタイヤ又は合成ゴムタイヤ入り ・ 幅（mm） ※約35 ・	3 手すり (20.2.6) 材質 表面仕上げ 直径（mm） 取付箇所 ・集成材 ・CL ・ 60 45 40 ・ ・ステンレスパイプ ・HL ・ 60 45 40 ・ ・銅製パイプ ・EP-G ・SOP 60 45 40 ・ ・ビニル製 材質 ステンレス製（SUS304）（・埋込工法 ※接着工法） 端部フラットエンド ※有（※タイヤと同材 ・ステンレス鋼） ・無 型式 ※ビニルタイヤ又は合成ゴムタイヤ入り ・ 幅（mm） ※約35 ・	4 階段滑止め (20.2.7) 材質 ステンレス製（SUS304）（・埋込工法 ※接着工法） 端部フラットエンド ※有（※タイヤと同材 ・ステンレス鋼） ・無 型式 ※ビニルタイヤ又は合成ゴムタイヤ入り ・ 幅（mm） ※約35 ・
		工事名 岡山市立京山中学校正門改修工事 No. A-07 図面名 建築改修工事特記仕様書 6 編 尺 寸 岡山市 都市整備局 住宅・建築部 公共建築課 令和6年3月 課長 課長補佐 係長 課員 担当者 承認 検図 製図					

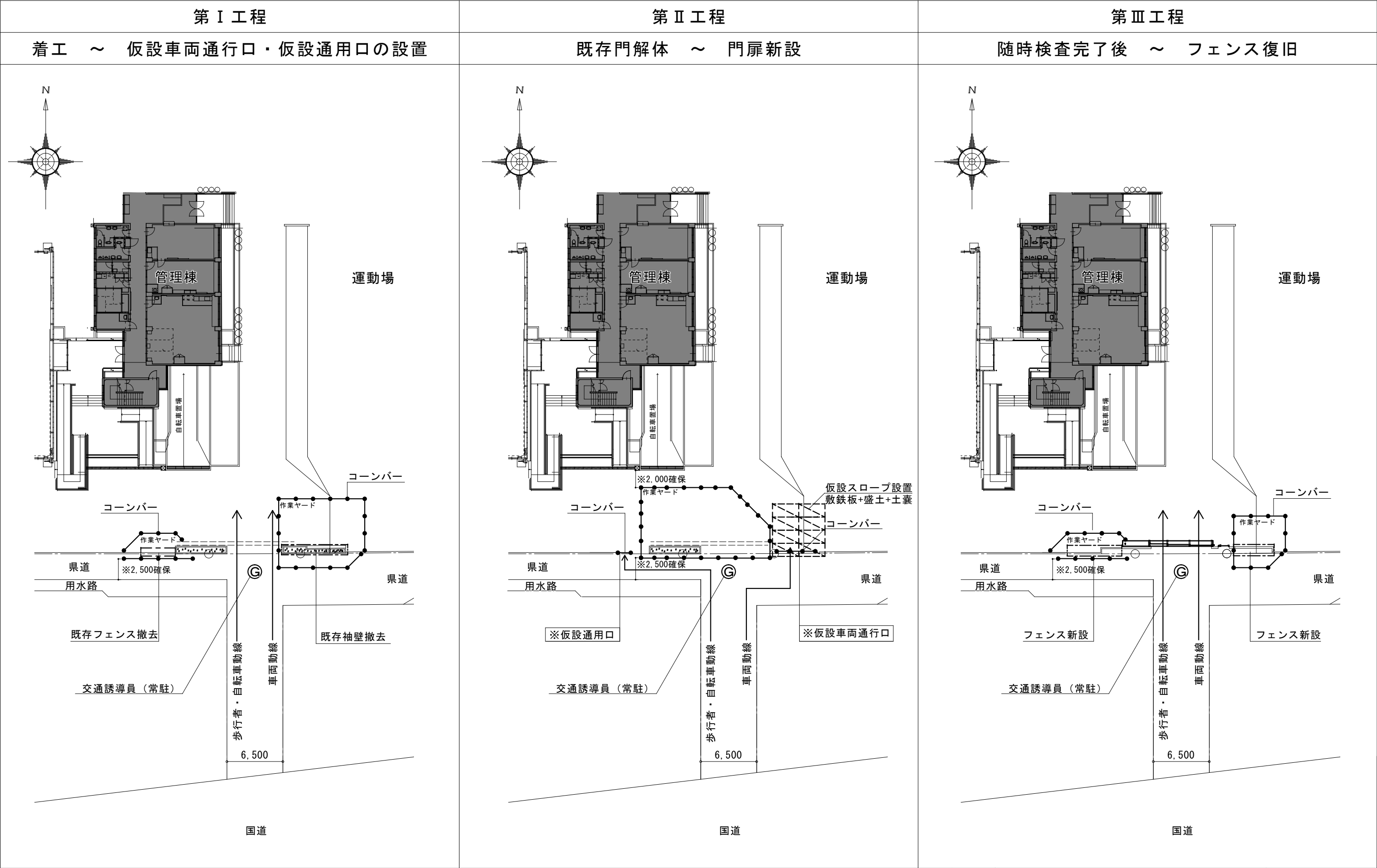


【凡例】

工事施工範囲を示す

配置図 1/800

工事名		岡山市立京山中学校正門改修工事					No.	A-08
図名	配置図				縮尺	1/800		
岡山市都市整備局住宅・建築部						令和6年3月		
公共建築課	課長	主幹	課長補佐	係長	課員		設計担当	



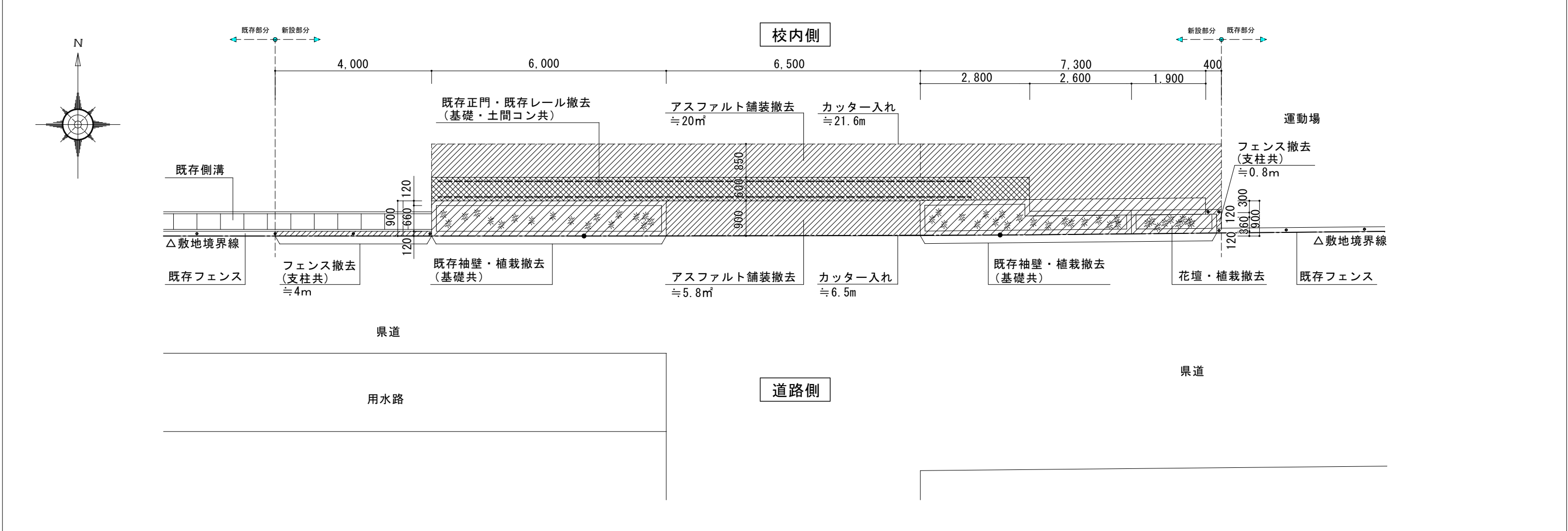
【凡例】

Ⓒ	交通誘導員（常駐）
●—●	コーンバー

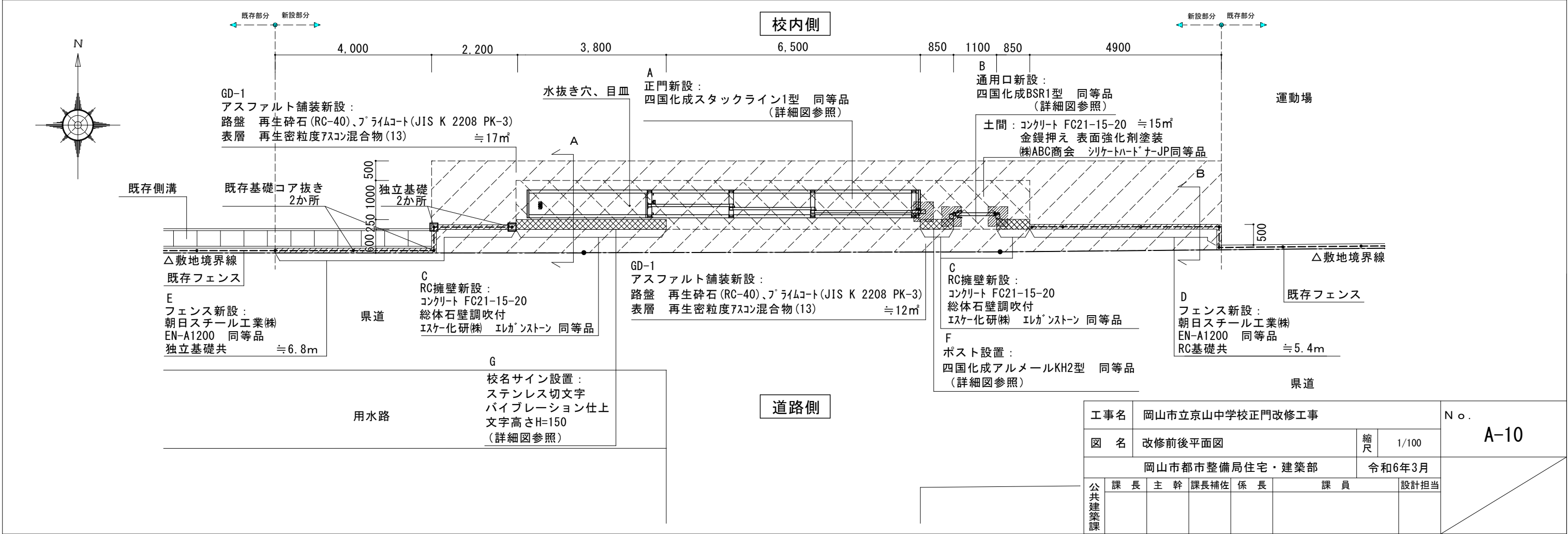
- 特記事項
- 仮設計画は参考図であり工事着手前に現況を調査、採寸をして仮設計画書を作成の上、監督職員の承諾を得て施工に取り掛かること。
 - 工事期間中も校舎は使用しており、施工手順については監督職員と協議の上、決定すること。
 - 工事期間中の職員・生徒等の動線及び安全性に十分配慮すること。
 - 工事用電力、水の使用、所定の手続きに要する費用はすべて受注者の負担とする。
 - 施工業者にて道路法24条申請を提出のこと

工事名		岡山市立京山中学校正門改修工事				No. A-09		
図名		仮設計画図（参考）		縮尺	1/400			
岡山市都市整備局住宅・建築部					令和6年3月			
公共建築課	課長	主幹	課長補佐	係長	課員			設計担当

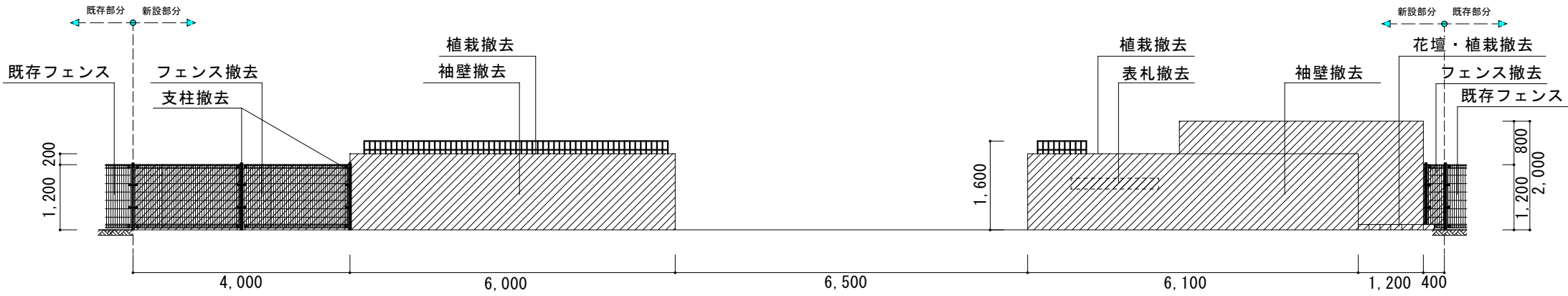
改修前



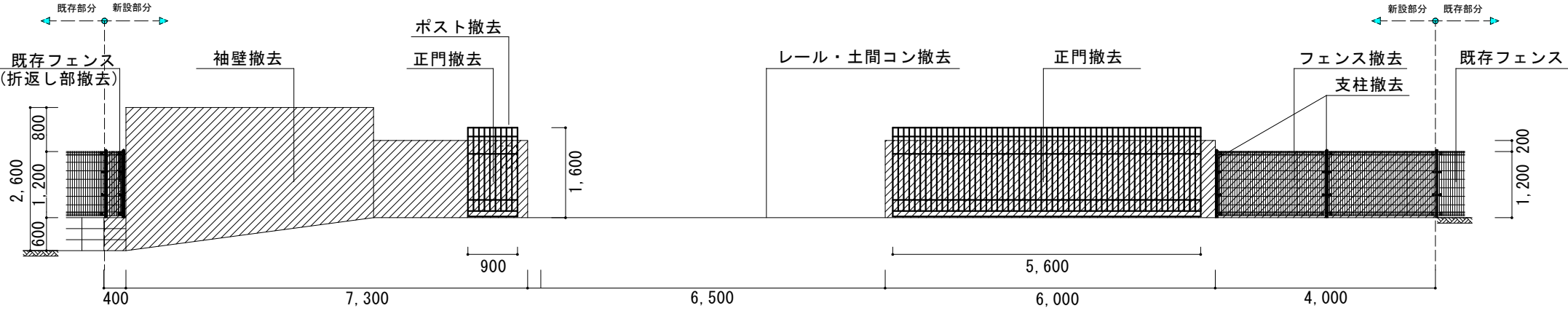
改修後 ※施工業者にて道路法24条申請を提出のこと



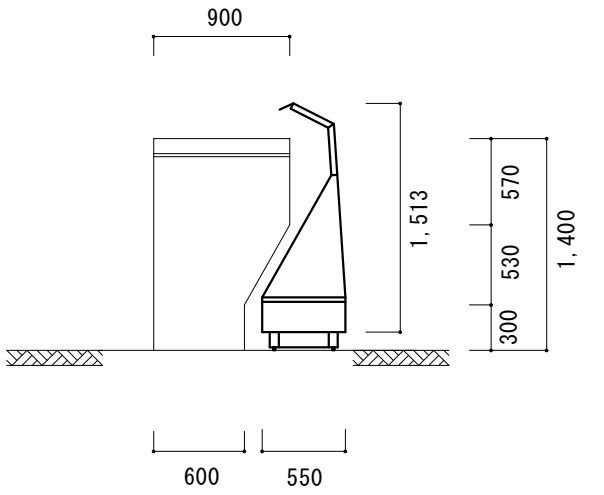
改修前



道路側立面図 1/100

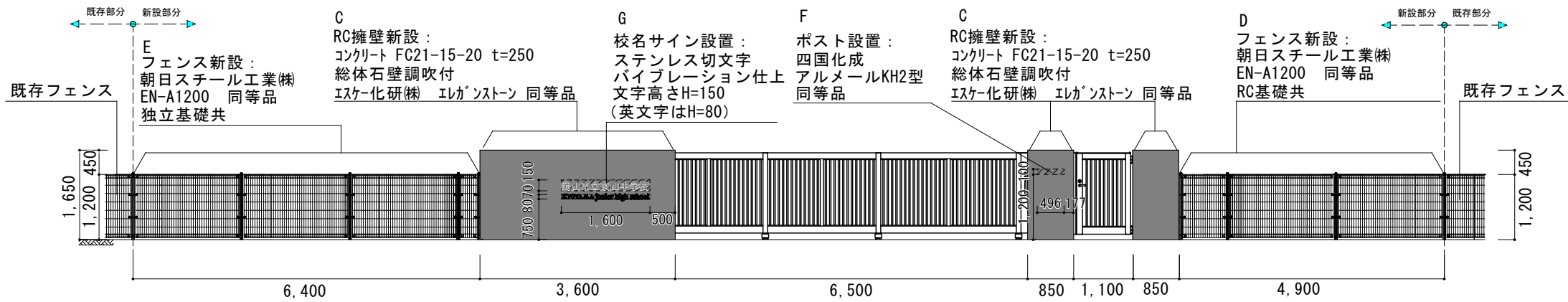


校内側立面図 1/100

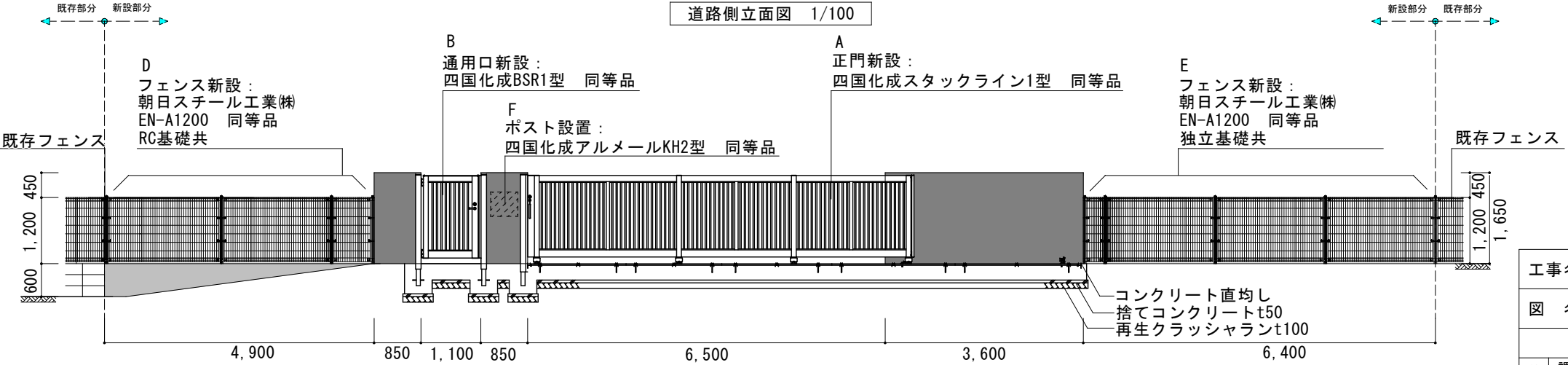


袖壁断面図 1/50

改修後



道路側立面図 1/100



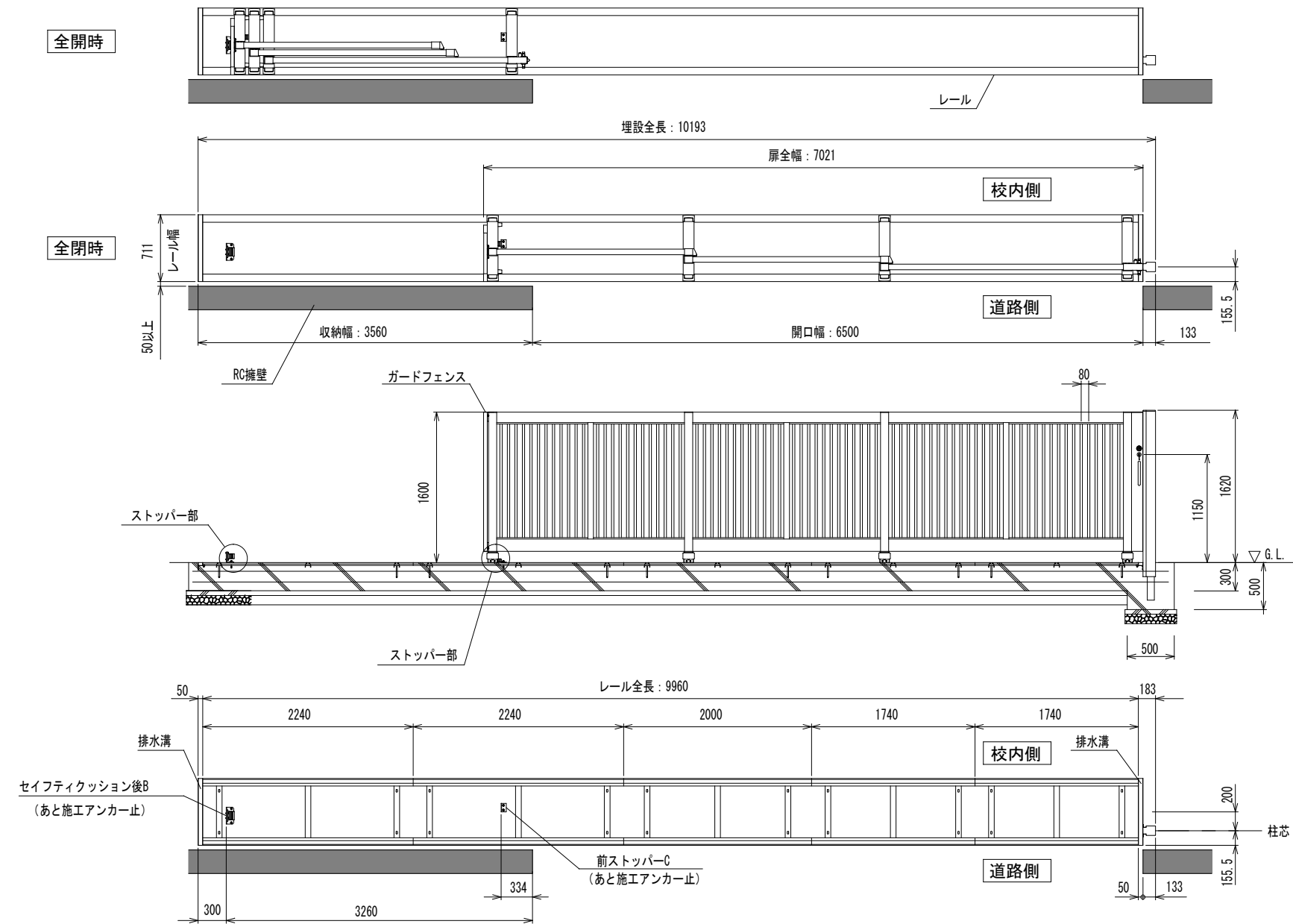
校内側立面図 1/100

コンクリート直均し
捨てコンクリートt50
再生クラッシャーランt100

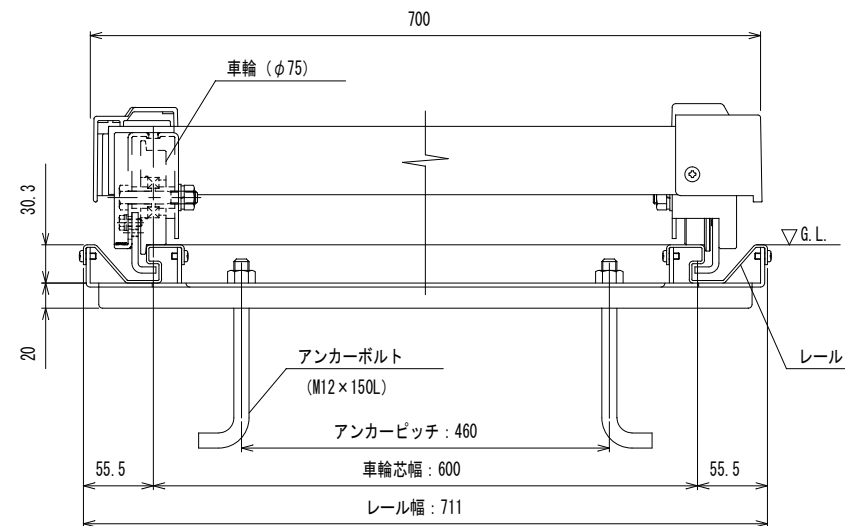
工事名		岡山市立京山中学校正門改修工事				No.		A-11
図 名		改修前後立面図			縮尺	1/100、1/50		
岡山市都市整備局住宅・建築部						令和6年3月		
公共建築課	課 長	主 幹	課長補佐	係 長	課 員		設計担当	

四国化成 スタックラインSR1型 同等品

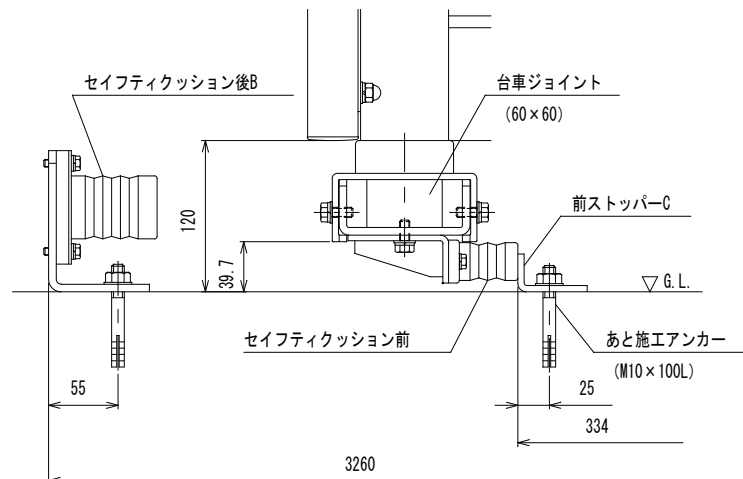
据付図 S=1/60



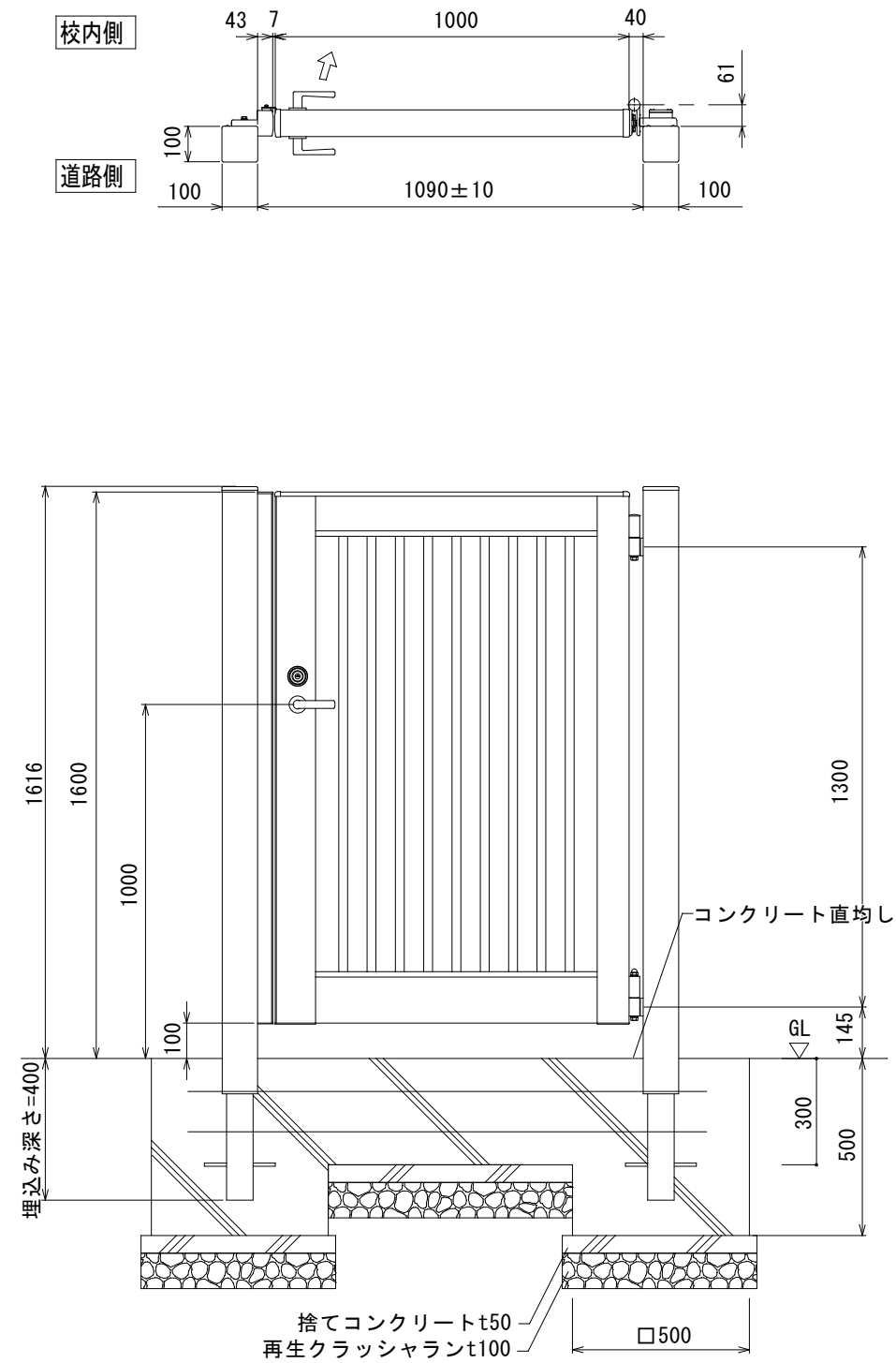
レール及び車輪部詳細図 S=1/6



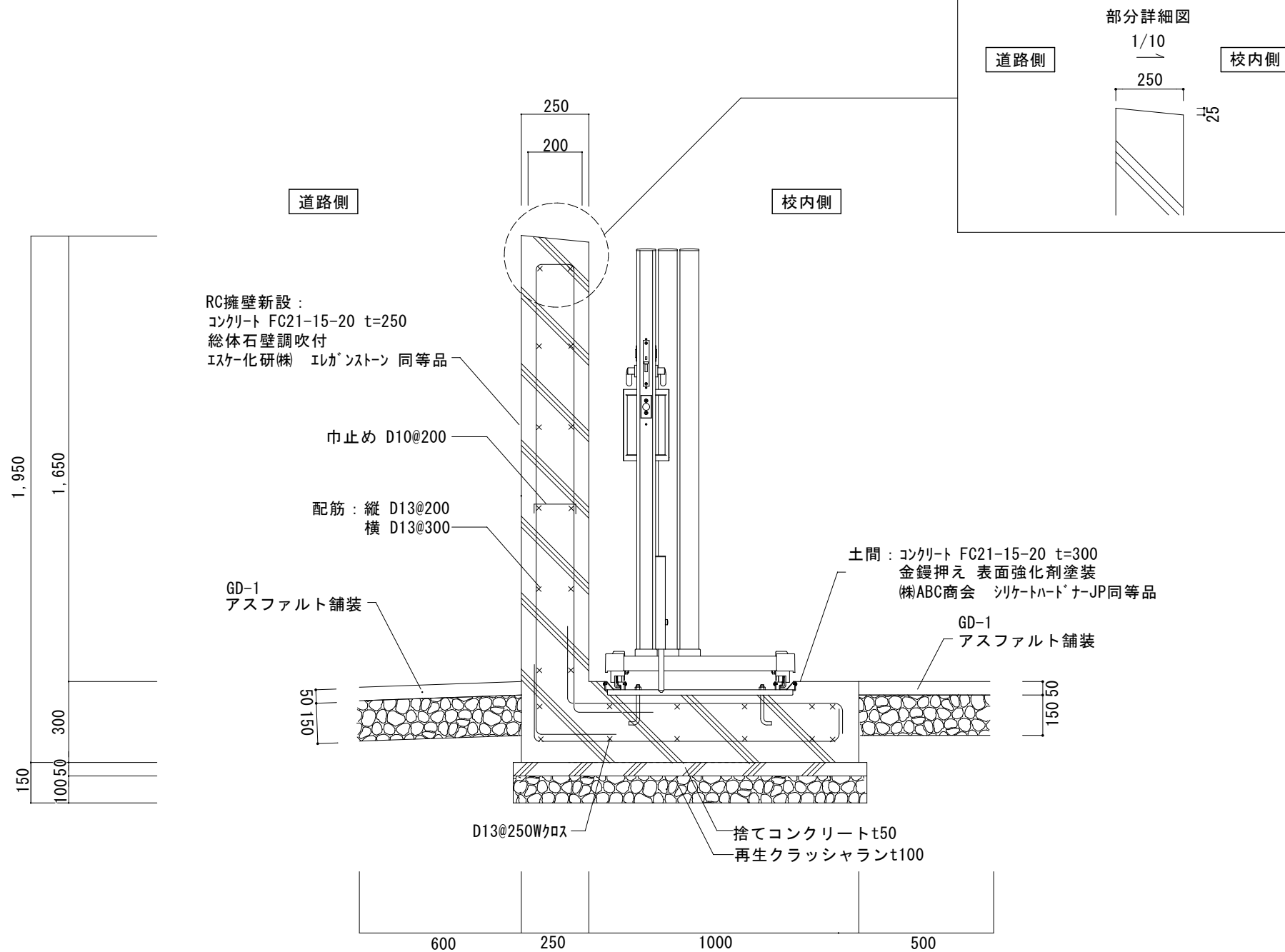
ストッパー部詳細図 S=1/6



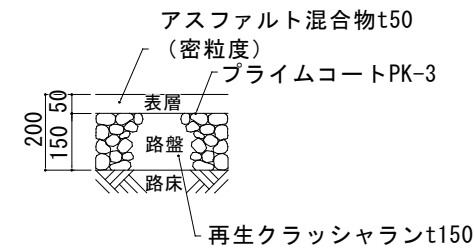
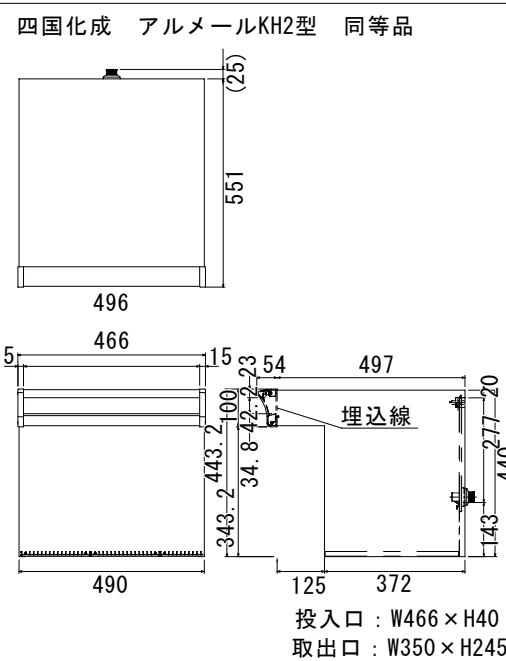
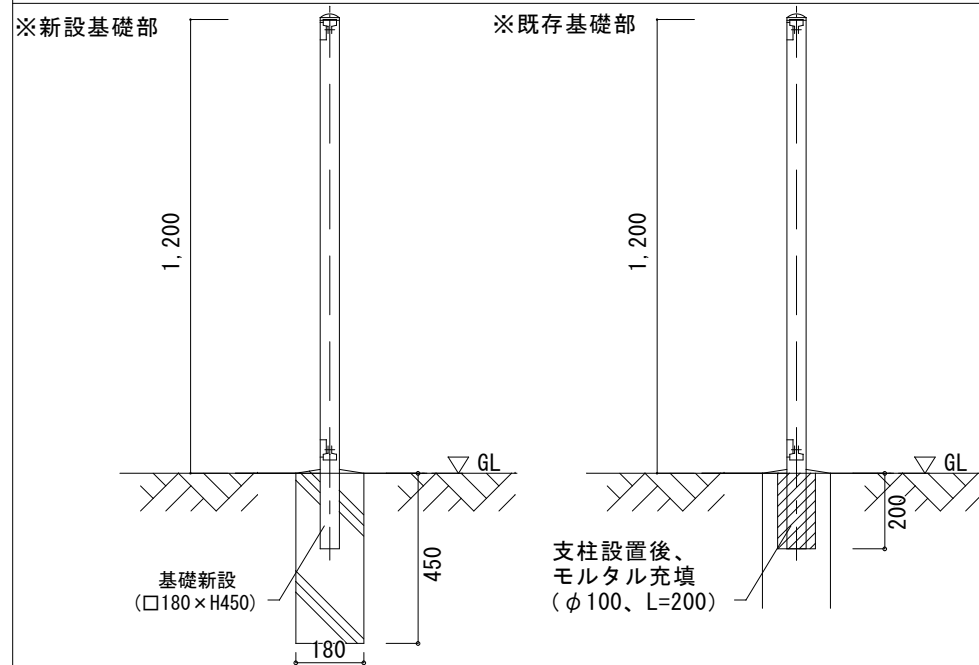
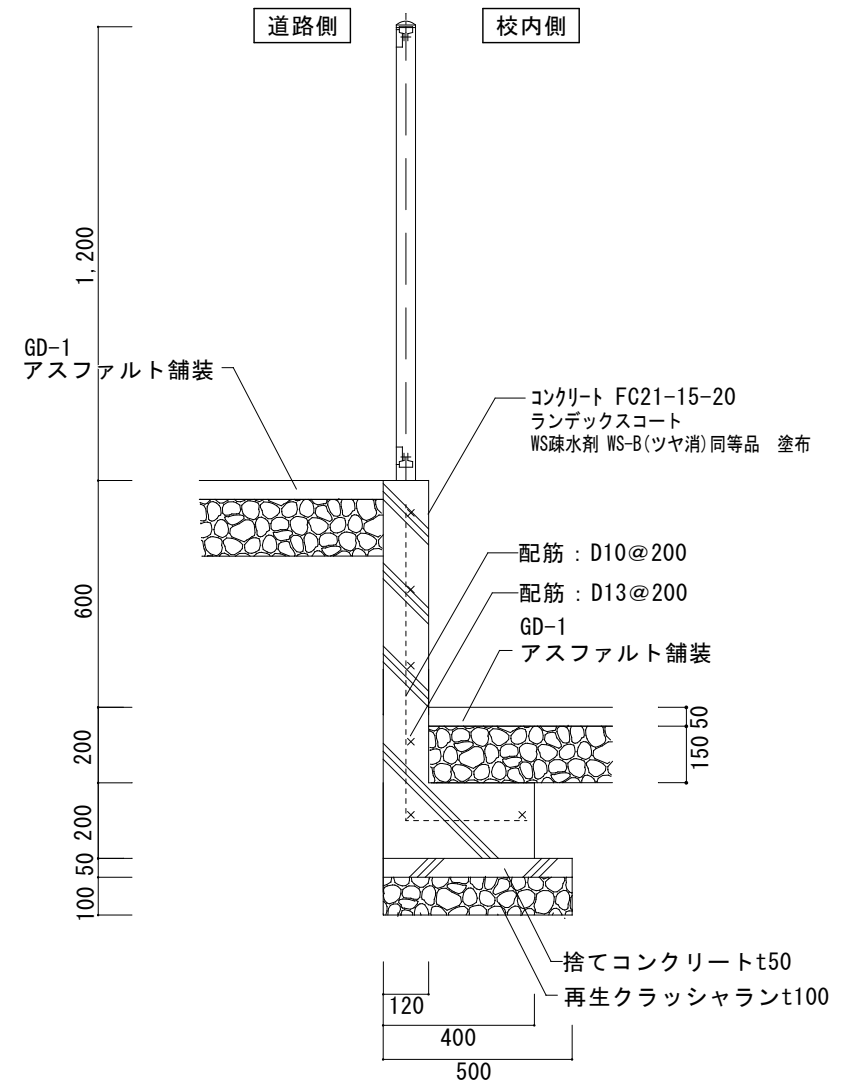
四国化成 BSR1型 同等品



工事名		岡山市立京山中学校正門改修工事				No.	
図 名		外構詳細図①			縮尺	1/60、1/20 1/6	A-12
岡山市都市整備局住宅・建築部					令和6年3月		
公共建築課	課 長	主 幹	課長補佐	係 長	課 員		



朝日スチール工業（株） EN-A1200 同等品



1, 600	
8070 150 <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto;"></div>	<div style="font-size: 2em; margin-bottom: 10px;">岡山市立京山中学校</div> <div style="font-size: 1.5em;">KYOYAMA junior high school</div>
SUS切文字 (t=3) ハ イフ レーション仕上げ 外壁アンカー固定 書体: Romantic (英字)、明朝 (漢字)	
工事名	岡山市立京山中学校正門改修工事
図 名	外構詳細図②
縮尺	1/20
岡山市都市整備局住宅・建築部	
令和6年3月	
課 長	主 幹
課長補佐	係 長
課 員	
設計担当	